

宮 城 県 の 経 済 動 向

平成 2 1 年 第 2 四 半 期

(4 月 ~ 6 月 期)

本県の経済概況

平成 21 年第 2 四半期（4 月～6 月期）の宮城県経済の動向をみると、生産は、持ち直しの兆しがみられる。住宅投資は、低調である。公共投資は、引き続き増加となった。個人消費は、引き続き弱い状態にある。雇用は、厳しさを増している。企業倒産は、件数は減少、負債総額は増加となった。

このように、景気は厳しい状況が続いているものの、一部に持ち直しの兆しがみられる。

[前期（平成 21 年 1 月～3 月期）の概況]

生産は、急速に低下している。住宅投資は、低調である。公共投資は、増加となった。個人消費は、弱まっている。雇用は、厳しさを増している。企業倒産は、件数、負債総額ともに減少となった。

このように、景気は悪化している。

生 産

鉱工業生産指数は、前年同期比が 3 期連続の低下となった。大口電力使用量は、前年同期比が 4 期連続の減少となった。

住宅投資

新設住宅着工戸数は、前年同期比が持家は 2 期ぶりに減少、貸家は 10 期連続の減少、分譲住宅は 2 期連続の減少となった。

全体では 8 期連続の減少となった。

公共投資

公共工事請負金額の発注主体別の前年同月比は、国、県、市町村がそれぞれ 2 期連続の増加となった。

全体でも 2 期連続の増加となった。

大型小売店

大型小売店販売額（百貨店・スーパーの販売額の合計。既存店比較）は、前年同期比が 39 期連続の減少となった。衣料品は 14 期連続の減少、飲食料品は 2 期連続の減少となった。

自 動 車

軽自動車の新車届出台数を含む乗用車新車登録台数は、前年同期比が 10 期連続の減少となった。普通車は前年同期比が 4 期連続の減少、小型車は前年同期比が 3 期連続の減少、軽自動車は前年同期比が 2 期連続の減少となった。

物 価

仙台市消費者物価指数は、総合指数は、前年同期比が 2 期連続の低下となった。生鮮食品を除く総合指数は、前年同期比が 2 期連続の低下となった。食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数は、5 期連続の低下となった。

雇 用

有効求人倍率（原指数）は、前年同期差が 7 期連続の低下となった。新規求人倍率（原指数）は、前年同期差が 8 期連続の低下となった。

実質賃金指数（製造業・30 人以上）は、前年同期比が 2 期連続の低下となった。

企業倒産

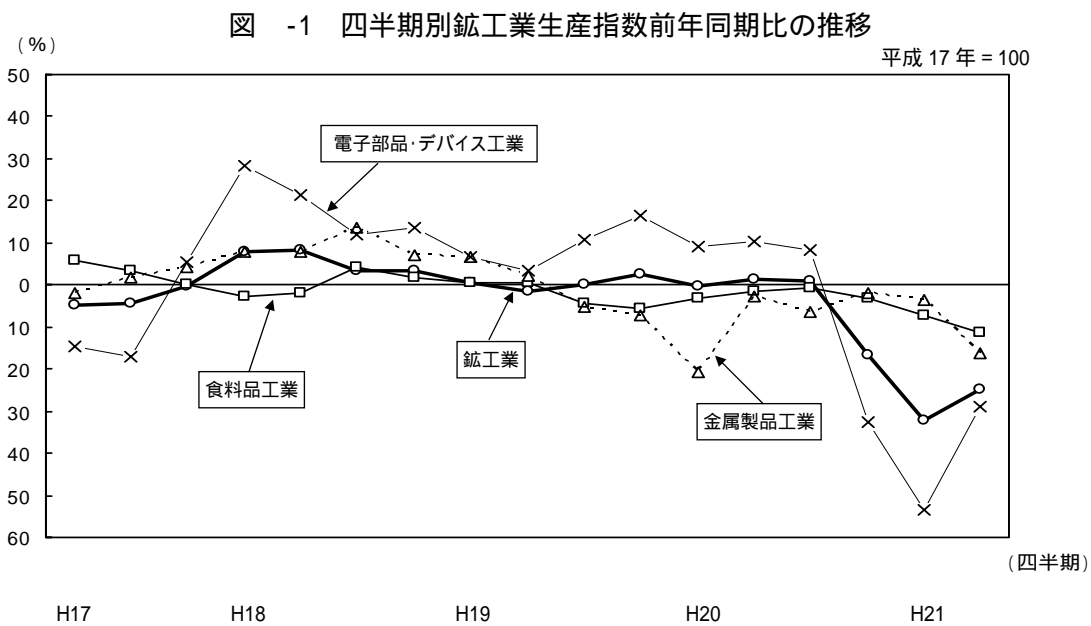
企業倒産は、件数は前年同期が 3 期連続の減少となった。負債総額は前年同月比が 3 期ぶりに増加となった。

生産

(1) 鉱工業生産指数

平成 21 年第 2 四半期(4 月～6 月期)の鉱工業生産指数(季節調整済)は 79.7(平成 17 年 = 100)で、前年同期比(原指数での比較)が 25.0%の低下となり、3 期連続の低下となった。

ウェイトの大きい業種を中心にみると、電子部品・デバイス工業は前年同期比が 29.0%の低下となり、3 期連続の低下となった。パルプ・紙・紙加工品工業は前年同期比が 18.0%の低下となり、3 期連続の低下となった。金属製品工業は前年同期比が 16.1%の低下となり、8 期連続の低下となった。電気機械工業は前年同期比が 12.4%の低下となり、4 期ぶりに低下となった。食料品工業は前年同期比が 11.2%の低下となり、8 期連続の低下となった。



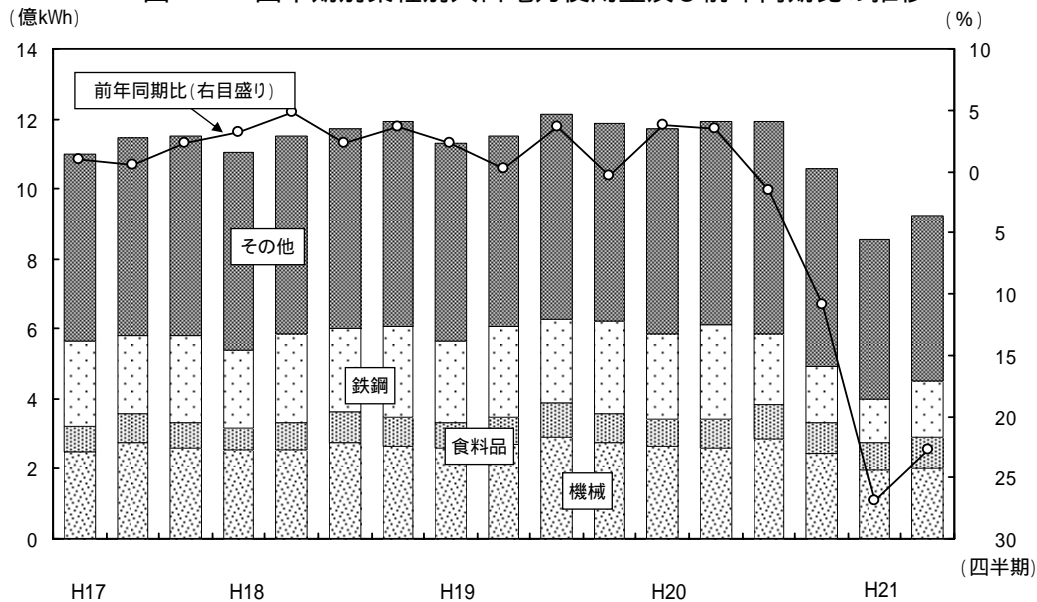
(資料:宮城県統計課)

(2) 大口電力使用量

平成21年第2四半期(4月～6月期)の大口電力(契約電力500KW以上)使用量は9億2,110万 kWhで、前年同期比が22.7%の減少となり、4期連続の減少となった。

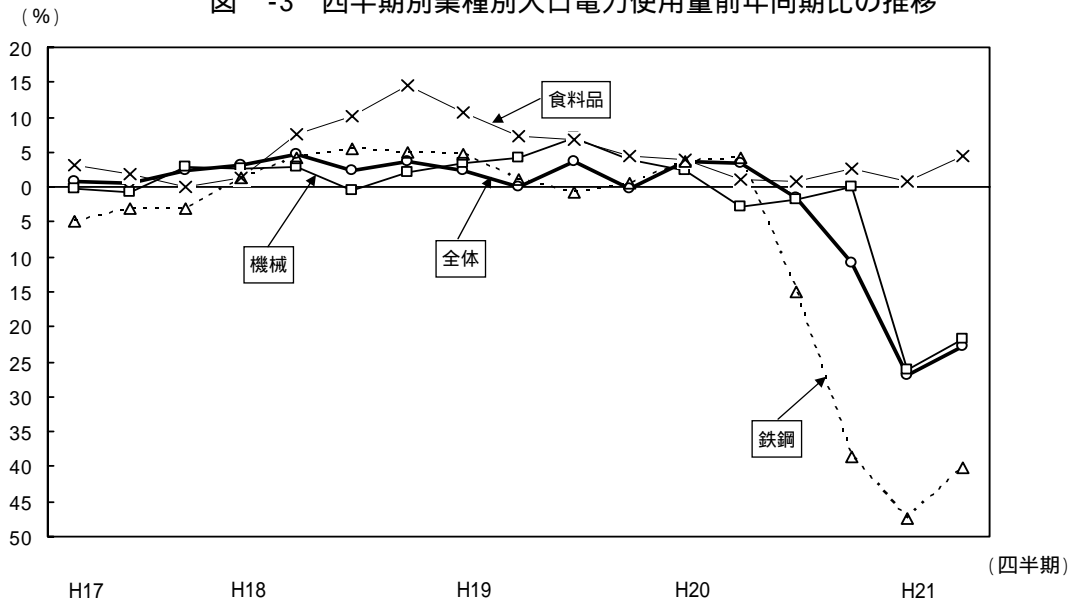
主要業種別にみると、食料品分野は前年同期比が4.6%の増加となり、平成16年第3四半期以降、20期連続の増加となった。機械分野は前年同期比が21.8%の減少となり、5期連続の減少となった。鉄鋼分野は前年同期比が40.3%の減少となり、4期連続の減少となった。

図 -2 四半期別業種別大口電力使用量及び前年同期比の推移



(資料: (株)東北電力宮城支店「業務資料」)

図 -3 四半期別業種別大口電力使用量前年同期比の推移



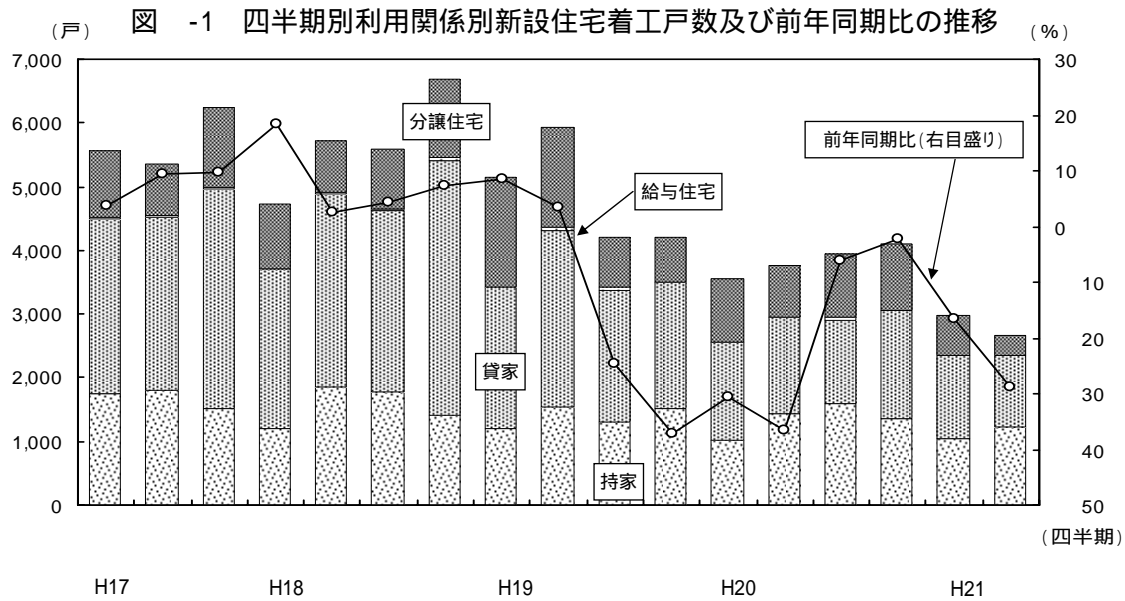
(資料: (株)東北電力宮城支店)

建設投資

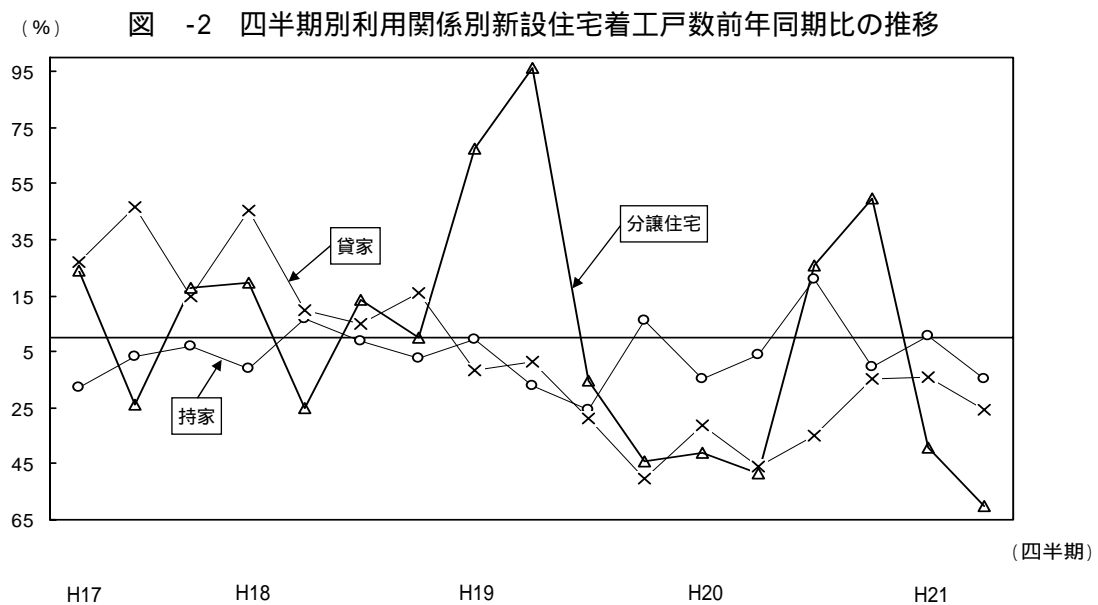
(1) 新設住宅着工戸数

平成21年第2四半期(4月～6月期)の新設住宅着工戸数は2,677戸で、前年同期比が28.7%の減少となり、8期連続の減少となった。

利用関係別にみると、持家(建築主が自分で居住する目的で建築するもの)は前年同期比が14.8%の減少となり、2期ぶりに減少となった。貸家(建築主が賃貸する目的で建築するもの)は前年同期比が25.6%の減少となり、10連続の減少となった。分譲住宅(建売または分譲の目的で建築するもの)は前年同期比が59.8%の減少となり、2期連続の減少となった。



(資料:国土交通省)

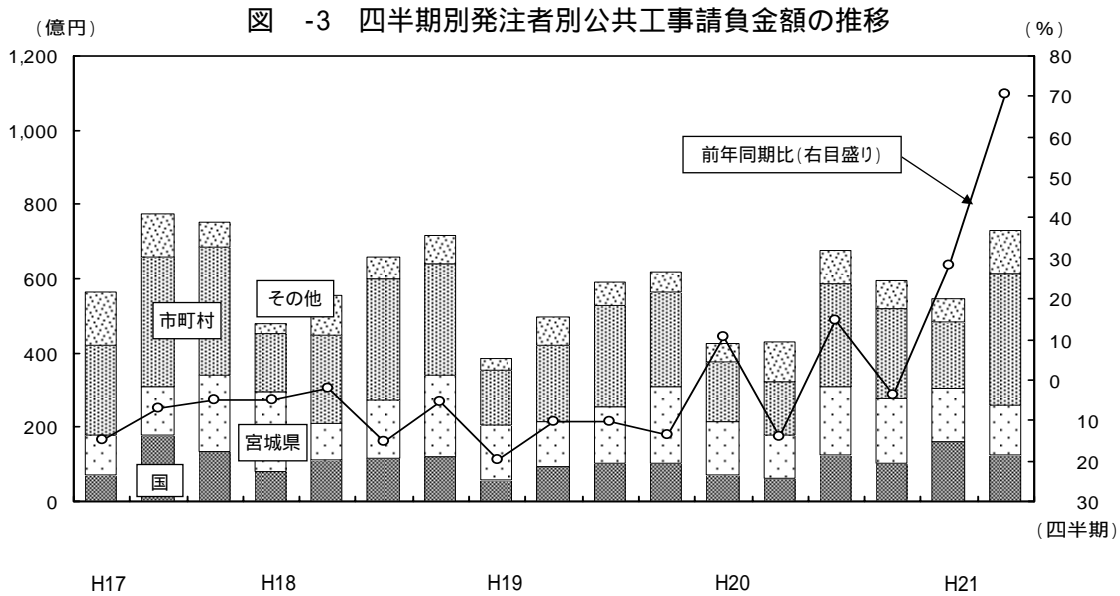


(資料:国土交通省)

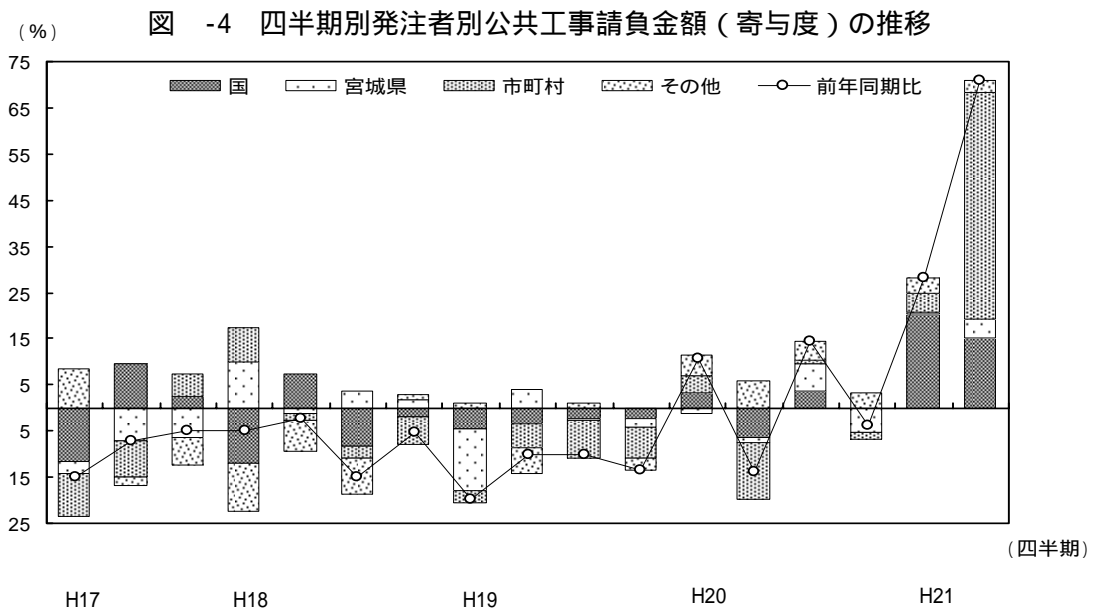
(2) 公共工事請負金額

平成21年第2四半期(4月～6月期)の公共工事請負金額は731億6,700万円で、前年同期比が70.8%の増加となり、2期連続の増加となった。

発注者別にみると、国は前年同期比が104.9%の増加となり、2期連続の増加となった。宮城県は前年同期比が15.4%の増加となり、2期連続の増加となった。市町村は前年同期比が146.2%の増加となり、2期連続の増加となった。



(資料:東日本建設業保証(株))



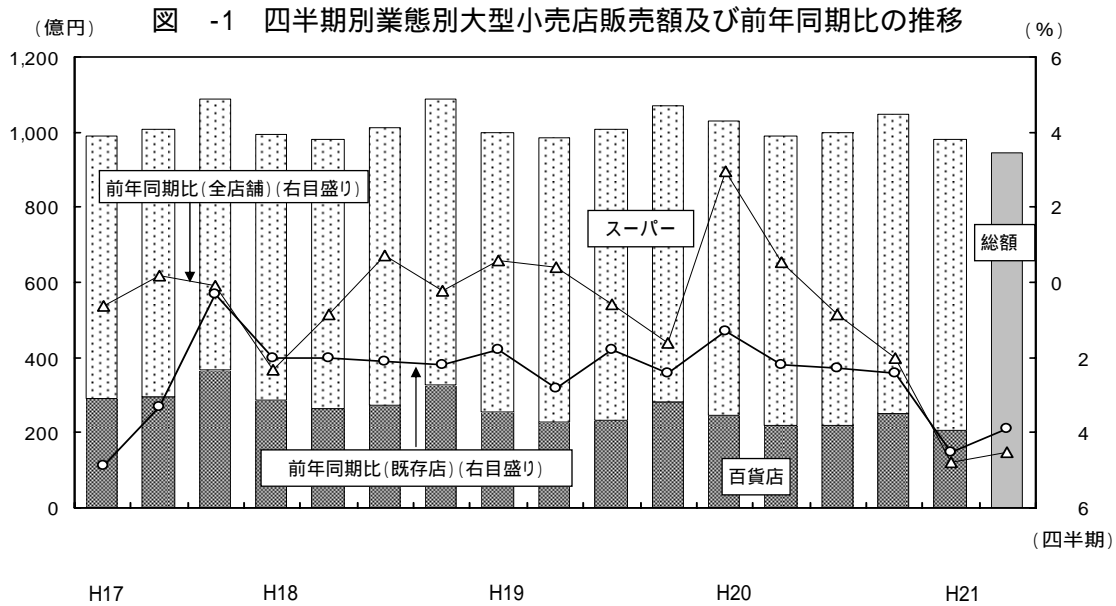
(資料:東日本建設業保証(株))

個人消費

(1) 大型小売店販売額

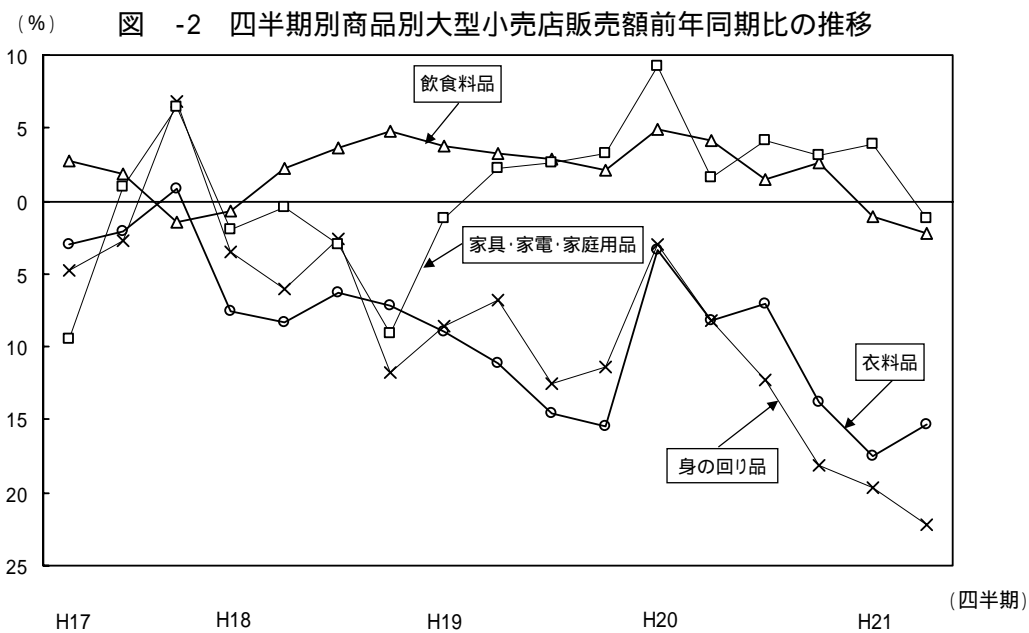
平成21年第2四半期(4月～6月期)の大型小売店販売額は945億5,500万円で、前年同期比(既存店比較)が3.9%の減少となり、平成11年第4四半期以降、39期連続の減少となった。

商品別にみると、衣料品は前年同期比が15.3%の減少となり、平成18年第1四半期以降、14期連続の減少となった。飲食料品は前年同期比が2.2%の減少となり、2期連続の減少となった。



平成21年4月分から宮城県の業態別数値は秘匿となっております。

(資料:東北経済産業局)

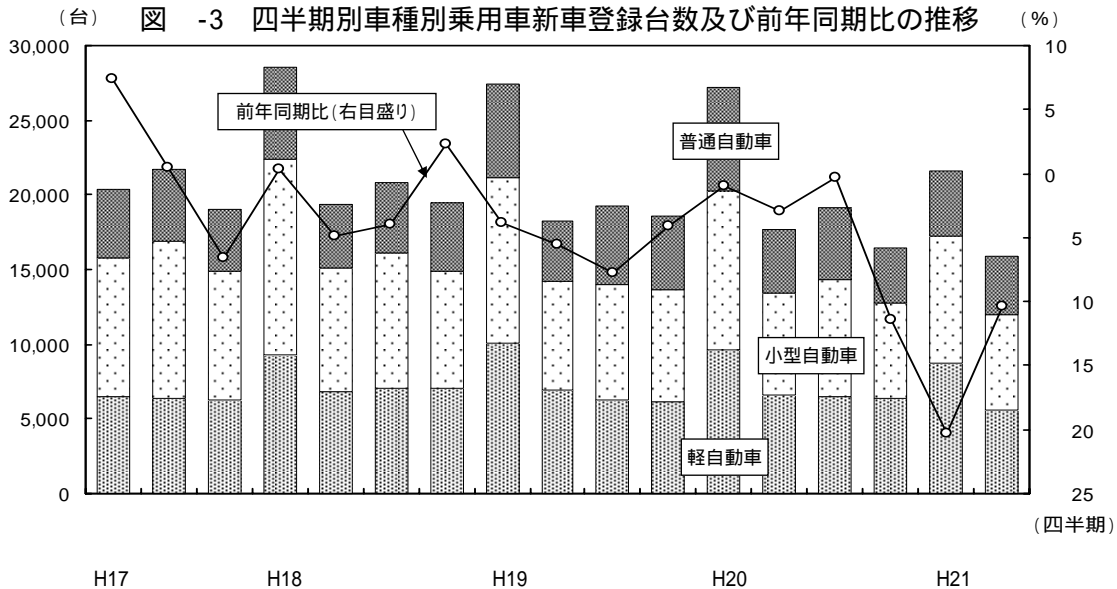


(資料:東北経済産業局)

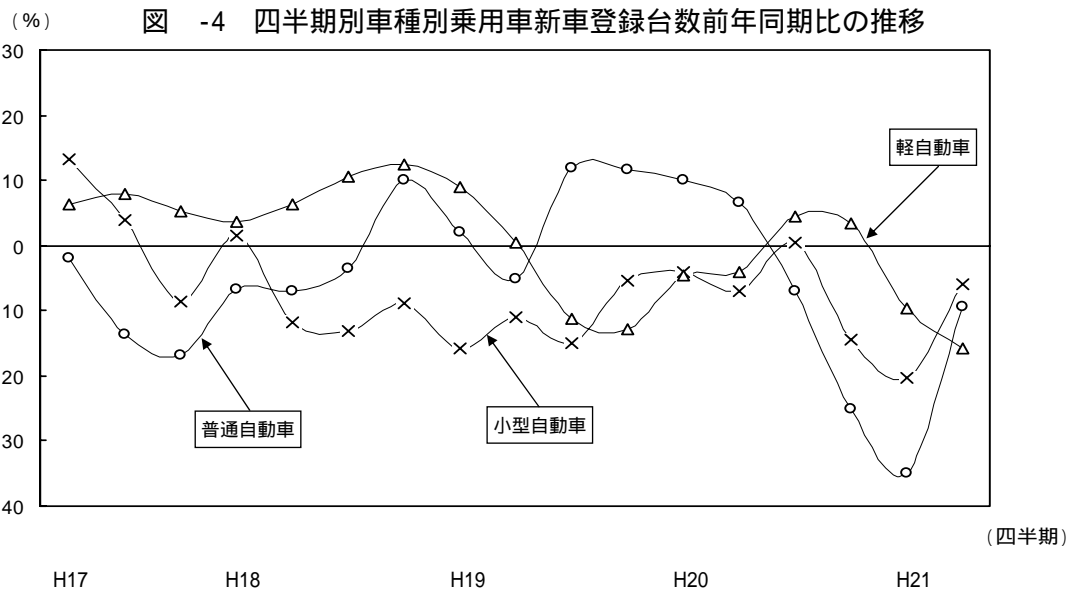
(2) 乗用車新車登録台数

平成21年第2四半期(4月～6月期)の軽自動車の新車届出台数を合わせた乗用車新車登録台数は1万5,886台で、前年同期比が10.4%の減少となり、10期連続の減少となった。

車種別にみると、普通車は前年同期比が9.5%の減少となり、4期連続の減少となった。小型車は前年同期比が6.0%の減少となり、3期連続の減少となった。軽自動車は前年同期比が15.6%の減少となり、2期連続の減少となった。



(資料:自動車販売協会連合会宮城県支部、全国軽自動車協会連合会)



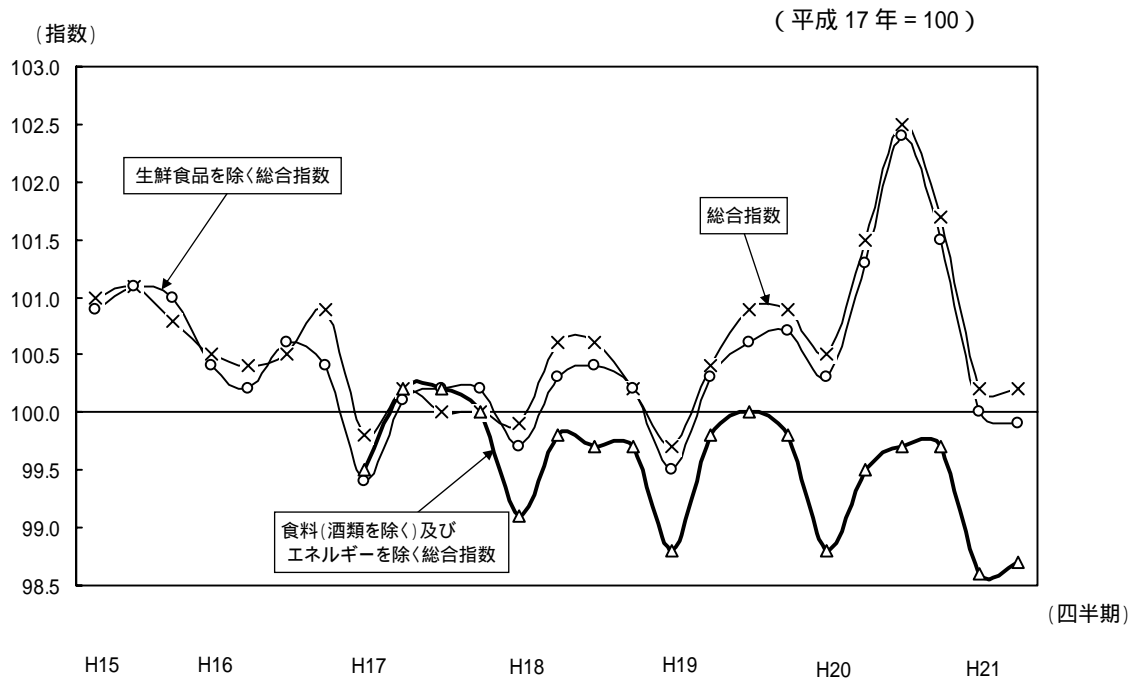
(資料:自動車販売協会連合会宮城県支部、全国軽自動車協会連合会)

物 価

(消費者物価指数)

平成 21 年第 2 四半期(4月～6月期)の平均仙台市消費者物価指数(平成 17 年 = 100)は、総合指数は 100.2 で、前年同期比が 1.3%の低下となり、2期連続の低下となった。生鮮食品を除く総合指数は 99.9 で、前年同期比が 1.4%の低下となり、2期連続の低下となった。食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数は、98.7 で、前年同期比が 0.8%の低下となり、5期連続の低下となった。

図 総合指数、生鮮食品を除く総合指数などの推移



(資料:宮城県統計課)

雇 用

(1) 有効求人倍率及び新規求人倍率

平成 21 年第 2 四半期(4月～6月期)の有効求人数(月平均値)は2万 2,510 人で、前年同期比が 31.0%の減少となった。有効求職者数(同)は6万 4,256 人で、前年同期比が 30.8%の増加となった。有効求人倍率(原指数)は 0.35 倍で前年同期差は、0.31 ポイント低下し、7期連続の低下となった。

新規求人数(月平均値)は9,523人で、前年同期比が24.5%の減少となった。新規求職申込件数(同)は1万 5,455 件で、前年同期比が 16.6%の増加となった。新規求人倍率(原指数)は 0.62 倍で前年同期差は、0.33 ポイント低下し、8期連続の低下となった。

図 -1 有効求人数(四半期平均) 有効求職者数(同)及び

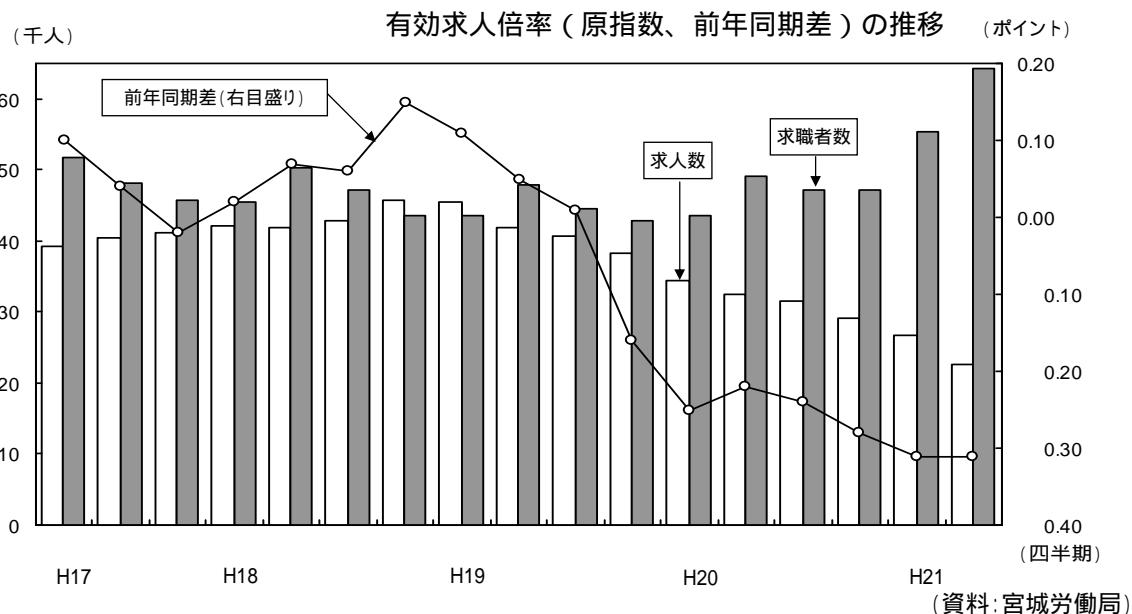
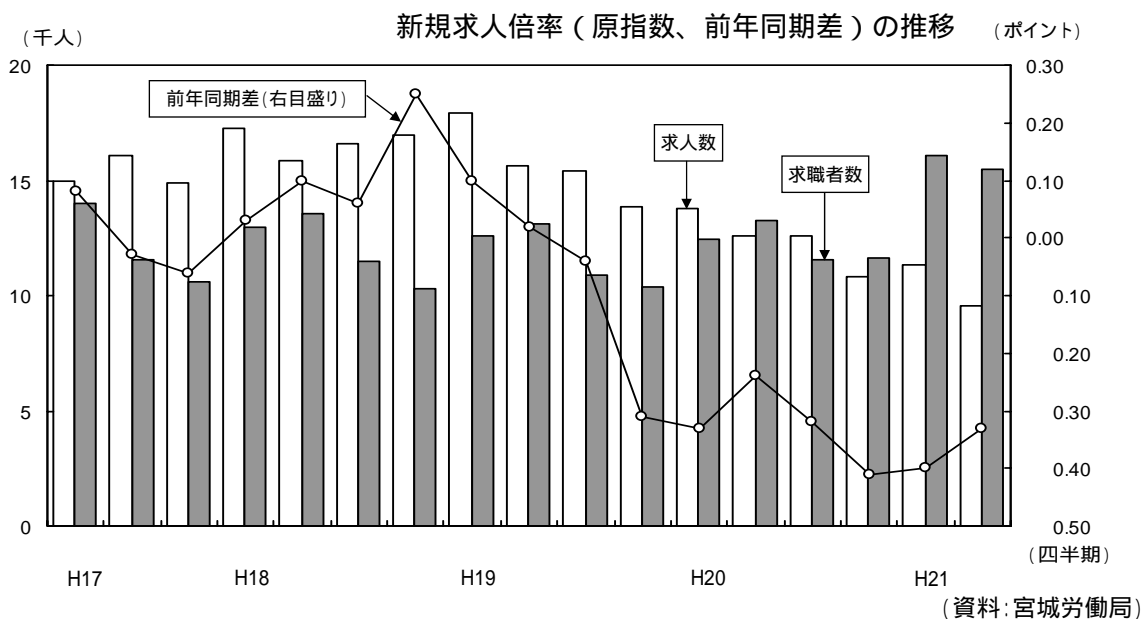


図 -2 新規求人数(四半期平均) 新規求職者数(同)及び

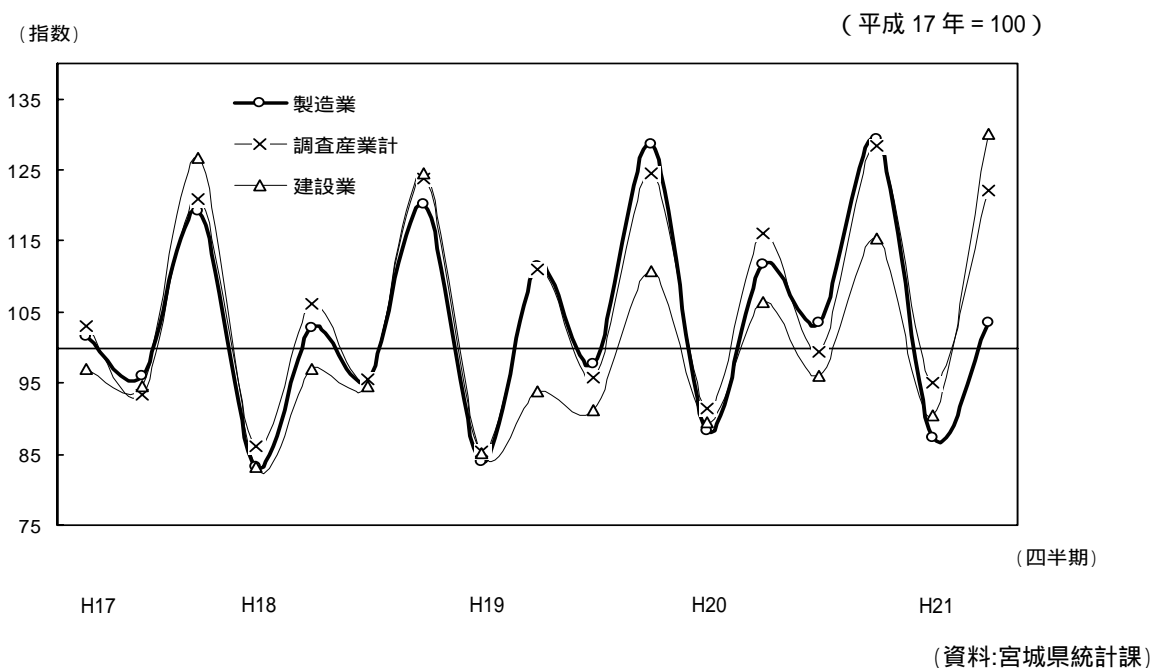


(2) 賃金

平成 21 年第 2 四半期(4月～6月期)の実質賃金指数(平成 17 年 = 100)の調査産業計(事業所規模 30 人以上)は 122.1 で前年同期比が 5.3%の上昇となり、9 期連続の上昇となった。

主要業種別にみると、製造業(事業所規模 30 人以上)は 103.4 で前年同期比が 7.5%の低下となり、2 期連続の低下となった。建設業(事業所規模 30 人以上)は 130.0 で前年同期比が 22.1%の上昇となり、6 期連続の上昇となった。

図 -3 四半期別主要業種別実質賃金指数の推移(事業所規模 30 人以上)



倒産

(企業倒産)

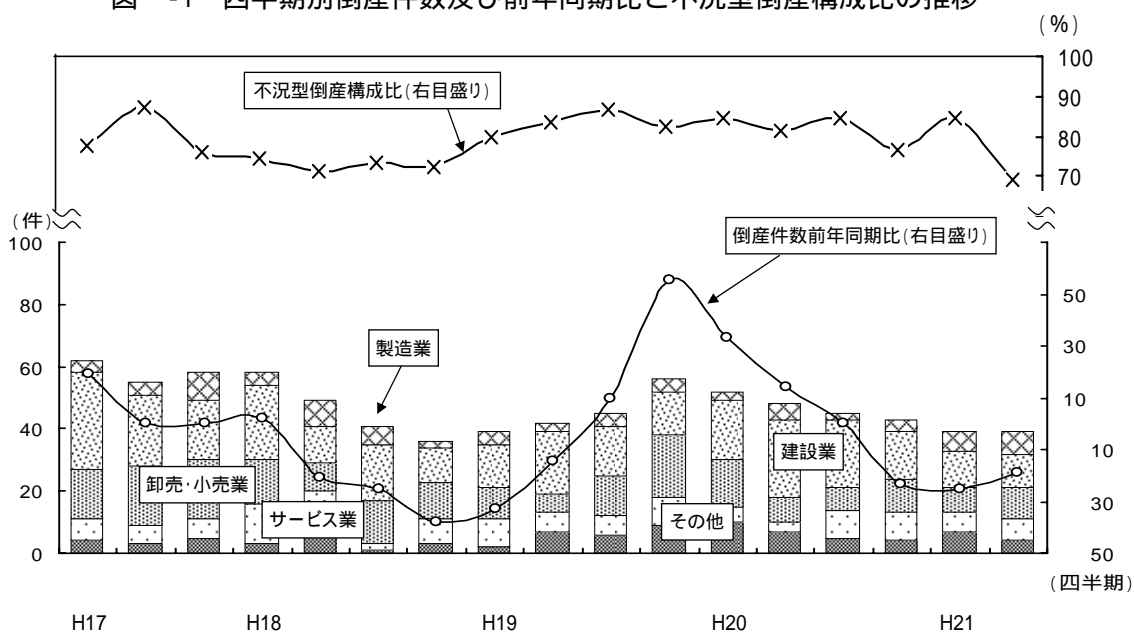
平成21年第2四半期(4月～6月期)の宮城県内の企業倒産(負債総額1千万以上)の件数は39件で、前年同期比が18.8%の減少となり、3期連続の減少となった。

負債総額は144億6,700万円で、前年同期比が27.8%の増加となり、3期ぶりに増加となった。

これらのうちの不況型倒産(販売不振、売掛金回収困難、赤字累積)の件数は27件で、4期連続の減少となった。件数の構成比は69.2%で前年同期より12.0ポイント低下となった。

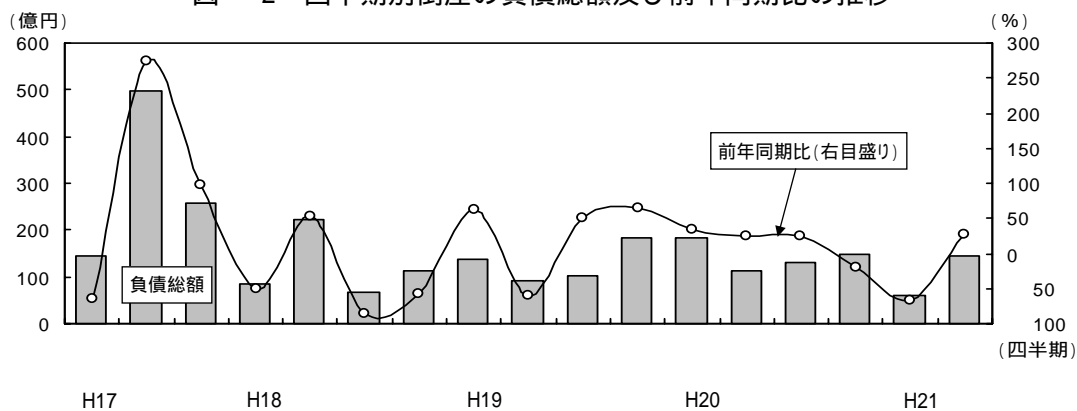
大型倒産(負債総額10億円以上)は3件発生し、前年同期より1件増加した。負債総額は、61億900万円であった。

図 -1 四半期別倒産件数及び前年同期比と不況型倒産構成比の推移



(資料: (株)東京商工リサーチ)

図 -2 四半期別倒産の負債総額及び前年同期比の推移



(資料: (株)東京商工リサーチ)